

# 「てある」と「ておく」の表現

日本語教育学講座

M1 孫綺晨(ソン キシン)

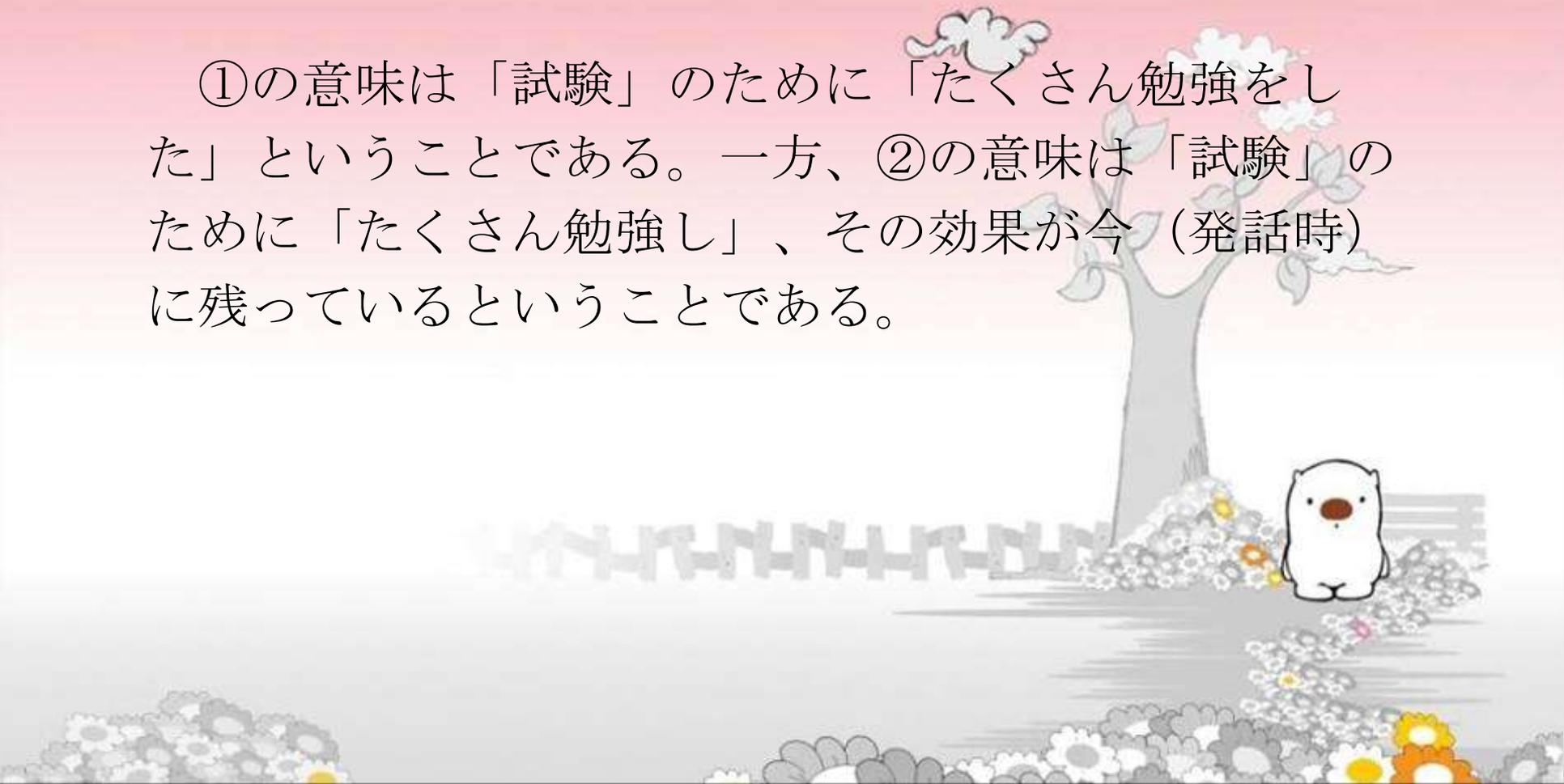




①試験のために、たくさん勉強をしておきました。

②試験のために、たくさん勉強をしてあります。

①の意味は「試験」のために「たくさん勉強をした」ということである。一方、②の意味は「試験」のために「たくさん勉強し」、その効果が今（発話時）に残っているということである。



以下のように、10つの問題があります。かっこの中に答えが2つあります。正しいと思っていた答えに○をつけてください。2つの答えとも正しい場合もあります。

- ① 試験のために、勉強をし(ておきました/てありました)。単語も覚え(ておきます/てあります)。
- ② あしたまでにこの自転車を(直しておきます/直してあります)。
- ③ A:窓を開けましょうか。  
B: 寒いですから、閉め(ておきます/てあるんです)。  
A:ああ、それじゃ、閉め(ておきましょう/てありましょう)。



- ④ A : 切符を買っ (ておきましたか/てありましたか) 。  
B : ええ、買っ (ておきました/てありました) 。  
A : もう、買っ (てあるんですか/ておきましたか) 。  
じゃ、大丈夫ですね。

- ⑤ 母: テスト勉強は? やったの?   
子: もう (やっておいたよ/やってあるよ) 。

- ⑥ (会議に必要な資料についてAとBが話している。AはB  
の上司とする。)

A : 資料のコピー、しなくちゃね。

B : あ、コピーなら (やっておきました/やってあり  
ます) 

⑦看板がいつまでも出し(ておく/てある)。

⑧看板をいつまでも出し(ておく/てある)。

⑨(会議で、司会者が)では、時間ですので、今日はここまでにし(ておきましょう/てありましょう)。

⑩とりあえず押し入れに入れ(ておこう/てあろう)。



## 先行研究

「てある」と「ておく」に関する先行研究が非常に多いが、ここでは代表的な研究をいくつか紹介させていただきたいと思う。

益岡(1987)をはじめ多くの研究が「てある」に2つの用法があることを前提に論じている。

例① カレンダーに今月の予定が書いてあります。

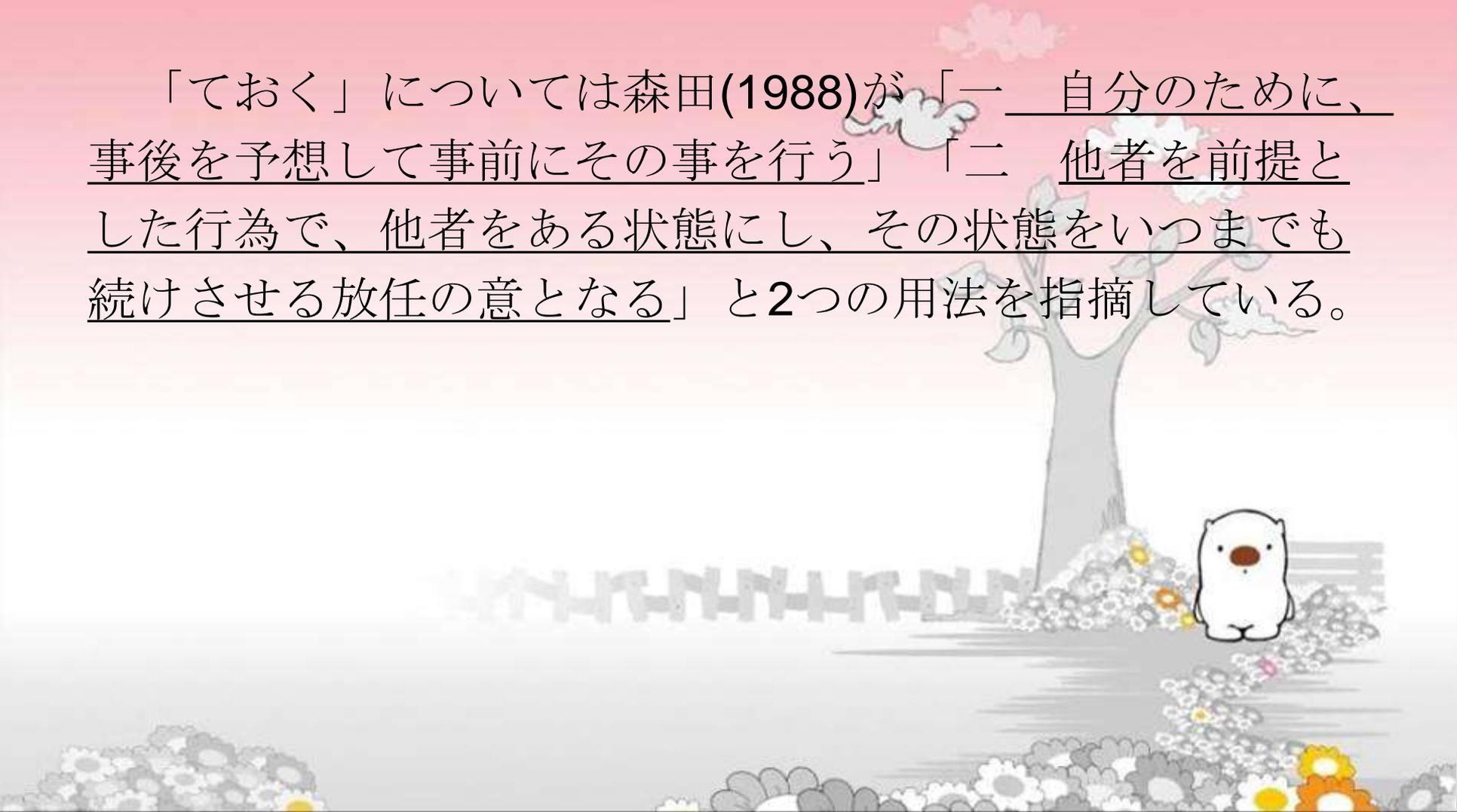
② (私は) プレゼントはもう買ってあります。

①は「対象」が主語として現れ、「動作主」が抑制される。存在の描写に主に用いられるので、益岡(1987)で「存在描写型」の「てある」と呼ぶことにする。

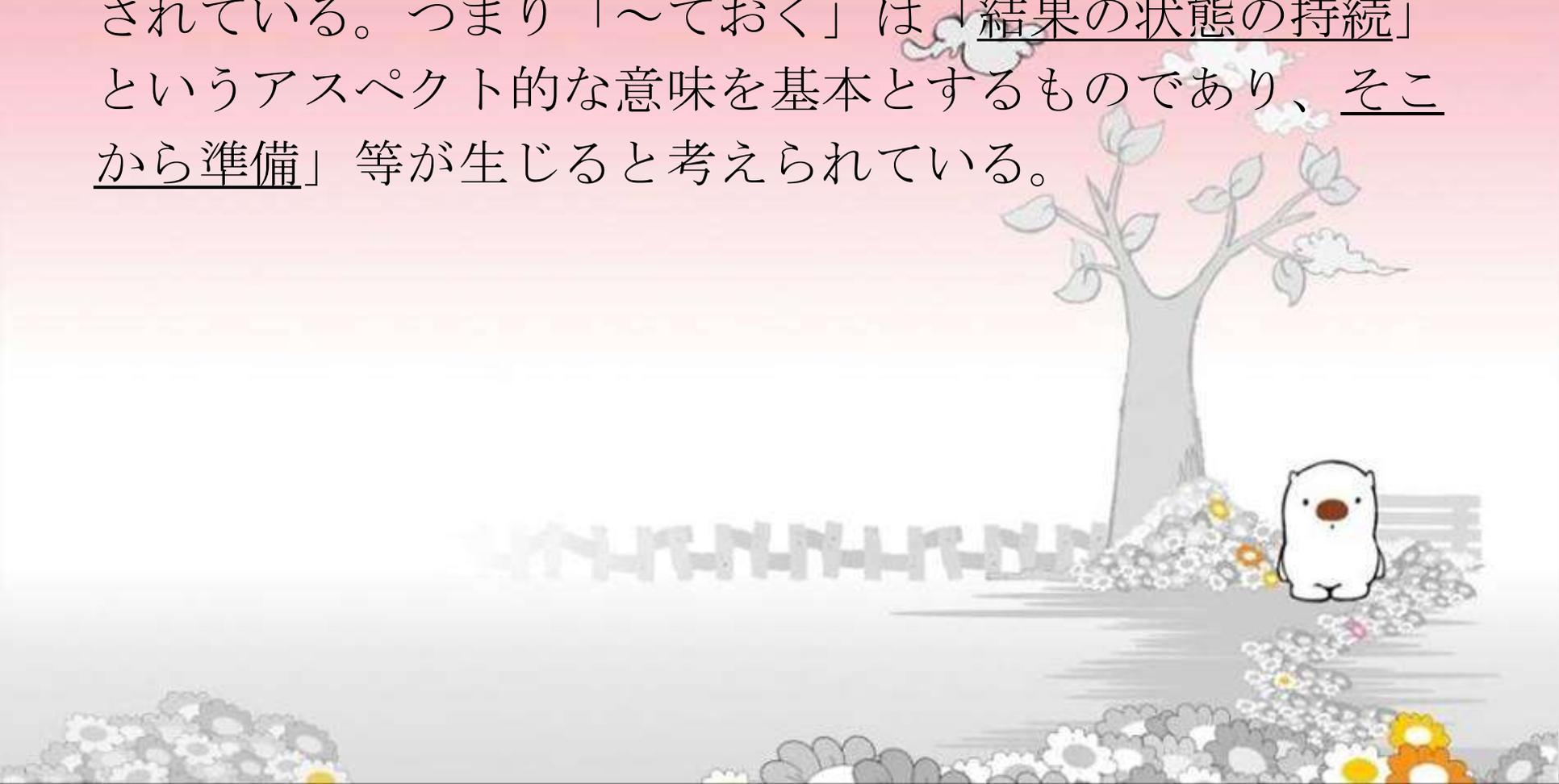


②は動作主が現れることができる。行為の結果の有効性がまだ残存していることを表すので、益岡(1987)では「有効性保持型」の「てある」と呼ぶことにする。

「ておく」については森田(1988)が「一 自分のために、事後を予想して事前にその事を行う」「二 他者を前提とした行為で、他者がある状態にし、その状態をいつまでも続けさせる放任の意となる」と2つの用法を指摘している。



また、『日本語文型辞典』（1998）には「（「～ておく」は）ある行為を行い、その結果の状態を持続させるという意味を示す。文脈によって、一時的な処置を表したり、将来に備えての準備を表したりする。（p. 247）」と記述されている。つまり「～ておく」は「結果の状態の持続」というアスペクト的な意味を基本とするものであり、そこから準備」等が生じると考えられている。



先行研究においては、「～である」と「～しておく」の違いは次のように記述されている。「『～である』も将来に備えての準備を表すが、構文の形式的違いのほかに、『～しておく』の場合は、準備として何らかの行為をすることを示し、「～である」はその準備ができている状態を示すという違いがある。（『日本語文型辞典』：247-248）」。

また、丸山（1994）でも両者の主語・主題の違いに注目して、「『～である』は物中心の言い方、『～しておく』は人中心の言い方」として日本語教育では指導されると述べている。

そのほか、杉村（2003）は「ておく」が行為に焦点を置いた表現であり、「てある」が結果に焦点を置いた表現であると説明されることが多いと指摘している。

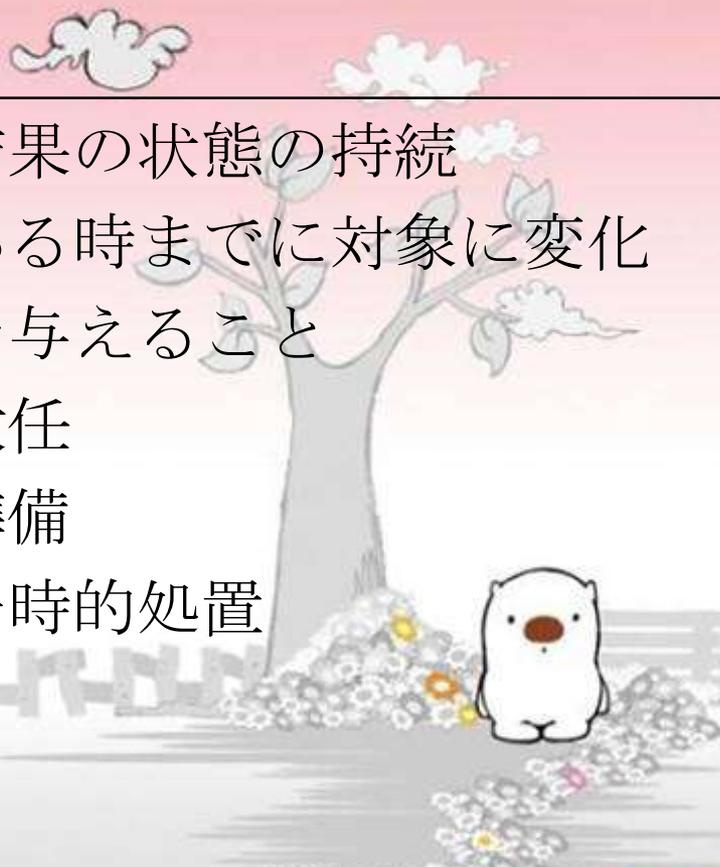
# まとめ

である

- ①結果の状態
- ②動作の終わったこと
- ③放任
- ④準備

ておく

- ①結果の状態の持続
- ②ある時までに対象に変化を与えること
- ③放任
- ④準備
- ⑤一時的処置



## ほかの視点

例

(仕事で二人で外出していた。外での用事が済んで帰ろうとした時)

(同僚が) KEIさん、直帰していいですよ。あとは僕がやっておきますから」 (といたので) 「いいんですか？」 そんなワケで定時より1時間早く帰った (笑) いいのかなあ・・・。



この例文には「KEI」は同僚の行為によって恩恵を受けることは明らかであり、したがって「KEI」の側から事態を叙述すると「同僚が（残りの作業を）やってくれる」ということになる。しかし、同僚はここで「あとはやってあげますから」のように「～てあげる」を用いることは不適切であり、例文のように「～ておく」を用いたほうが適切であろう。つまりこのことから、恩恵を与える場合は授益行為として述べるよりも処置的行為として述べるほうが、適切性が高い発話であることがわかる。

ポライトネスの観点からも考察していく必要があると考えられる。（山本裕子（2005））



## 参考文献

- 庵功雄・高梨信乃・中西久美子・山田敏弘（2000）．『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク．
- グループ・ジャマシイ編（1998）．『日本語文型辞典』くろしお出版．
- 丸山敬介（1994）．『おしえるためのことばの整理 vol 2』京都日本語教育センター．
- 益岡隆志（1987）『命題の文法』くろしお出版
- 森田良行（1988）．『基礎日本語辞典』角川書店．
- 杉村泰（2003）「テオク構文とテアル構文の非対称性について」『言語文化論集』24-2、pp. 95-101、名古屋大学
- 山本裕子（2005）「「～ておく」の意味機能について」名古屋女子大学紀要51、207-218

ご清聴、ありがとうございました。

